

過去の自然体験が大学生の環境配慮行動に及ぼす影響

井上 大河 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード：自然体験，大学生，環境配慮行動

1. 序論

近年，私たちの周りでは環境問題が大きく取り上げられている。環境問題には，地球温暖化，オゾン層の破壊，熱帯林の減少，酸性雨，海洋汚染などが挙げられ，川村²⁾は「環境問題を対処していくためには，われわれ一人ひとりが人間と環境との関わりについて理解と認識を深め，豊かな自然や快適な環境の価値について認識を高めていくことが必要であり，環境配慮行動が必須である」と述べている。また，内閣府⁴⁾は日常生活における環境配慮行動の実施率が低いのは特に20代であると報告しており，原因としては自然体験の不足が挙げられ，子どもの頃からの様々な体験が求められている。

そこで本研究では，過去の自然体験活動が大学生の環境配慮行動に及ぼす影響について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【実験群】B大学で野外教育を専門に学ぶ4回生19名，3回生11名の計30名(男24名，女6名)。

【統制群】B大学に所属する4回生24名，3回生6名の計30名(男24名，女6名)。

【調査用紙】

過去の自然体験を明らかにするために国立青少年教育振興機構³⁾の「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」から筆者が独自に修正を加えた計13項目の質問用紙を用いた。環境配慮行動を測定するために井上¹⁾の環境配慮行動尺度を参考に筆者が独自に修正を加えた14項目を用いた。

3. 結果及び考察

実験群と統制群において，過去の自然体験を調査したところ，すべての項目において有意な差が認められた(表1)。

表1:過去の自然体験の平均と標準偏差

N	実験群		統制群		t値
	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	
アウトドア体験項目	20.5 (2.37)	12.7 (2.09)	13.1	***	
自然触れ合い項目	10.4 (2.66)	4.83 (1.23)	10.4	***	
田舎体験項目	6.00 (1.25)	4.10 (.845)	6.76	***	
農作業体験項目	3.20 (2.75)	1.75 (.679)	7.23	***	

M:平均 SD:標準偏差 ***p<.001

次に，実験群と統制群において，環境配慮行動の比較を行ったところ，全ての因子に有意な差が見られた。すなわち過去の自然体験は環境配慮行動に影響を及ぼしていることが明らかとなった(表2)。特に，有意な差が見られた節約行動因子は，自然体験の中で得られたイメージや感性が環境に対する関心

を高めたことが，環境配慮行動に差がみられた要因であると考えられる。

表2:環境配慮行動の平均と標準偏差

N	実験群		統制群		t値
	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	
節約行動因子	20.2 (3.34)	12.5 (1.52)	11.5	***	
工夫した生活行動因子	12.3 (3.41)	7.07 (1.57)	7.62	***	
3R行動因子	9.33 (2.95)	6.70 (.952)	4.65	***	
ごみ処理行動因子	8.67 (1.34)	7.07 (1.11)	5.01	***	

M:平均 SD:標準偏差 ***p<.001

また，暮らし方による環境配慮行動を見たところ，実験群における実家暮らしと下宿暮らしの違いによる環境配慮行動には有意差が見られなかった。一方，統制群における実家暮らしと下宿暮らしの違いによる環境配慮行動には有意差が見られた。すなわち統制群にのみ実家暮らしと下宿暮らしの環境配慮行動に差があることが明らかとなった(表3)。統制群の暮らし方に差ができた要因として，実家暮らしでは普段自分では行わないことを下宿暮らしでは自分で行わなければならないことが，環境配慮行動の差に表れたと考える。

表3:暮らし方による環境配慮行動の平均と標準偏差

N	実家暮らし		下宿暮らし		t値
	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	
実験群	48.1 (7.94)	52.6 (8.13)	1.54	n.s	
統制群	31.2 (2.75)	35.1 (2.66)	3.92	**	

M:平均 SD:標準偏差 n.s:有意差なし **p<.01

4. まとめ

過去の自然体験は環境配慮行動に影響を及ぼすことが明らかになった。また，過去の自然体験が多いと環境配慮行動を行うが，自然体験が少なくても下宿暮らしをして1人で生活する立場にある場合は，環境配慮行動を行うことが明らかになった。

主要参考・引用文献

- 1)井上望，中野友博(2011):復興ボランティアが大学生の環境配慮行動・環境配慮意識に及ぼす影響，びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要，第9号，pp. 51-58
- 2)川村協平(1998):自然体験活動の報告書，日本野外教育研究会編
- 3)国立青少年教育団体(2009):青少年の体験活動等と自立に関する実態調査(平成22年度調査報告用紙報告書)
- 4)内閣府(2008):平成20年版国民生活白書 pp. 37-56